

# 修理技術者資格制度 キャリアアップの仕組み

## 技師長

修理全体に目を配り、後進を育てる。  
日本を代表する修理責任者として、修理設計や技術指導など、対外的に活動。



講習会

技師長試験

・筆記試験、面接

上級講習会

・各専門家の講義

登録後、最短で  
17年目から挑める

## 主任技師

責任者として担当作品を持つ修理現場の要。  
現場での作業や後進の指導、修理工程の管理や発注者への説明、国や自治体の文化財保護監督者などとの協議に主体的に関わる。



中級講習会  
実技審査

主任技師試験

・筆記試験、面接  
(※中級講習会実技審査  
合格者のみ受験可能)

中級講習会

・各専門家の講義  
・実技審査

登録後、最短で  
11年目から挑める

## 技師

担当する修理工程の範囲が少しずつ広がる。  
先輩の指導の下、いろいろな作業を徐々に一人でこなせるようになる。  
絵画か書跡か自分の進む専門分野を考える。



初級講習会  
実技審査

初級講習会

・各専門家の講義  
・実技審査

登録後、最短で  
4年目から挑める

## 技師補

分野を問わず、修理に関する全般的な基礎知識を  
習得。糊炊き、包丁研ぎ、紙継ぎ、資料整理など  
の下仕事を通じて、道具や材料の扱い方を学ぶ。  
先輩の指導の下で、モノに触れる機会も与えられる。

登録審査

・筆記試験



新任者研修会

装演師連盟加盟工房所属の場合は、新任者研修を受講

その他の工房所属の場合は、  
文化庁文化財（美術工芸品）修理技術者講習会を受講